

政府管掌健康保険における健診・医療費データの分析結果

健診結果と医療費の関係

健診結果で異常が見つかった項目が多いほど10年後の患者一人当たり医療費は高くなり、異常なしの者と主要4検査項目異常ありの者では3倍の格差。



・全項目異常なし 約14万円 ... ①

・主要4検査項目 (BMI、血圧、脂質、代謝系) 異常あり 約45万円 ... ②

➡ ①と②の差 約3.2倍

(参考) 主要4検査項目の健診結果と医療費の関係

	(異常なし)	(異常あり)	格差
BMI(肥満)	16.3万円	19.3万円	約1.2倍
血圧	15.6万円	22.5万円	約1.4倍
脂質(コレステロール等)	16.4万円	17.6万円	約1.1倍
代謝系(血糖値等)	16.1万円	27.1万円	約1.7倍

糖尿病患者と健診・医療費の関係

10年前の健診結果を見ると、代謝系に異常があった者は約43%が糖尿病患者となっており、代謝系に異常がない者の約6倍であった。

(平成5年度)

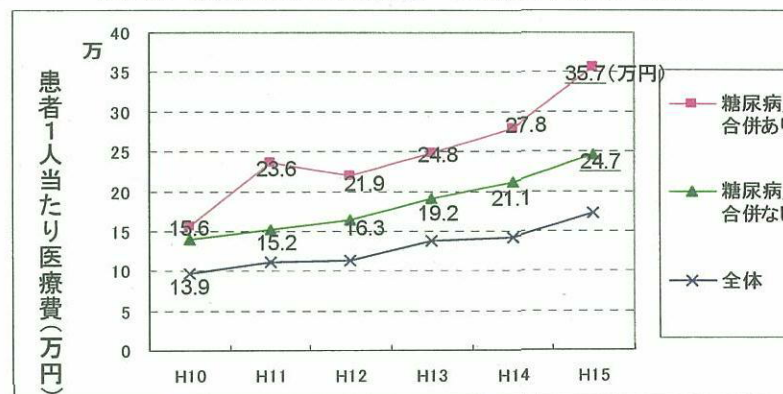
(平成15年度)

代謝系で異常あり※ → 43%が糖尿病患者 } 約6倍の差
代謝系で異常なし → 7%が糖尿病患者

※平成10年に健診結果が異常なしと改善した群は、18%が糖尿病患者と大幅に低い値となっていた。

糖尿病合併症患者と合併症のない患者は、5年前の医療費はほぼ同額であったが、年々格差が拡大し、現在の医療費では約10万円の差が生じていた。

糖尿病・合併症ありなし別患者一人当たり医療費の推移



出典:「政府管掌健康保険における医療費等に関する調査研究報告書」(医療経済研究機構)